



平成26年
6月7日(土)
15時開演

水上勉没後10年追悼公演

語りと独演

越前竹人形

昭和38年に発表された『越前竹人形』は、竹人形師・喜助と元娼妓の美しい妻・玉枝の純愛と官能の交錯する物語。坂本長利の独り語りのために書き改められ、昭和57年に初演された。
幻の妖女か、竹の精霊か。雪の山峡にくりひろげられる愛の悲歌。水上文学に挑む坂本長利の至芸！

坂本長利、演ずるということ。



平成26年
6月8日(日)
15時開演

『宮本常一講演選集』発刊記念公演

独演劇

土佐源氏

民俗学者・宮本常一氏が、昭和16年の冬、土佐の山奥で八十歳の盲目の馬喰に出会い、その生涯を聞き書きした話が『忘れられた日本人』に記されている。
「色懺悔」という言葉ではおさまりきれない、ひとりの男の愛と性。坂本長利が独演劇化して昭和42年に初演、上演回数は本公演で1166回となる。

料金

3,600円 / (当日券4,000円)

全席指定

※セット鑑賞券あり

会場

座・高円寺2

主催：響和堂 協力：農山漁村文化協会 / 周防大島文化交流センター / 若州一滴文庫 / 坂本座 / 永富衛 / 中博史
照明：吉川貴昌 音響：袴田康裕 制作デスク：石倉浩子 企画制作：仲村映美